

## 第219回 教育研究評議会 要 録

日 時 令和5年4月26日(水) 13時00分～15時18分  
場 所 遠隔会議：第一会議室、各研究室等  
出席者 榊理事長、今岡学長、榎本理事、藤原副学長、久保副学長、西村副学長、黒子副学長、  
遊佐副学長、中山文学部長、山内理学部長、中山生活環境学部長、藤田工学部長、  
渡邊人間文化総合科学研究科長、鈴木広光評議員、吉田容子評議員、酒井評議員、柳沢評議員、  
鈴木則子評議員、松本評議員、吉田哲也評議員、衣川評議員、高田評議員  
列席者 三野監事、三谷監事、林総務課長、望月企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、  
奥施設課長、岡田情報課長/学術情報課長、瀧田国際課長、植田研究協力課長、  
米谷学務課長、桑原学生生活課長、早川入試課長、岩阪監査室長  
議 長 今岡学長

議事に先立ち、

- ①学長から列席者の紹介。
- ②前々回及び前回の記録について確認。

### I 審議事項

#### 1. 諸規程等の制定等について

##### (1) 国立大学法人奈良国立大学機構役員等に関する規程の一部改正について

総務課長から、資料1により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認し、役員会に付議することとした。

#### 2. 3ポリシーの点検について

学務課長から、資料2及び参考資料1により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

柳沢評議員から、全学の3ポリシーの点検結果を踏まえた上で各部局に点検依頼を出すスケジュールにすべきではとの意見があり、学務課長から、次年度に向けて検討する旨の回答があった。

文学部長から、ポリシーの大幅な見直しを行う場合のスケジュールについて質問があり、西村副学長から、具体的なスケジュールは決めていないが、早い段階から検討してもらえるよう考慮する旨の回答があった。この回答に対して文学部長から、今回の点検ではポリシーの見直しは行わないと理解して良いのかとの質問があり、西村副学長から、理解の通りである旨の回答があった。

人間文化総合科学研究科長から、ポリシーを見直す際には、全学のポリシーを決めてからそれに沿った形で各学部等のポリシーを見直すべきとの意見があった。

#### 3. メディア授業の定義（授業の実施形態と単位の考え方）について

学務課長から、資料3により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

#### 4. 国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議委員の選出について

学長から、資料4により、理事長選考・監察会議規程に基づき教育研究評議会から選出される委員2名を投票により選出すること、1回目の投票で上位4名を選出し、2回目の投票で上位2名を選出することの提案があり、審議の結果これを承認した。

監事を立会人として、2名連記による2回の投票の結果、上位2名である中山文学部長及び高田評議員を選出した。

中山 満子 文学部長 令和6年3月31日まで

高田 将志 評議員 令和7年3月31日まで

※任期は、理事長選考・監察会議規程第3条により教育研究評議会評議員の任期と同一期間

## 5. 奈良国立大学機構大学総括理事候補者選考検討会議構成員の選出について

学長から、資料5により、大学総括理事候補者選考検討会議規程に基づき教育研究評議会から選出される委員3名を投票により選出すること、1回目の投票で上位6名を選出し、2回目の投票で上位3名を選出することの提案があり、審議の結果これを承認した。また、欠員が生じた場合、速やかに補充ができるよう、得票数が次点の委員3名を決めておくことの提案があり、審議の結果これを承認した。

監事を立会人として、3名連記による2回の投票の結果、上位3名である山内理学部長、柳沢評議員及び高田評議員を選出した。

山内 茂雄 理学部長 令和6年3月31日まで

柳沢 卓 評議員 令和6年3月31日まで

高田 将志 評議員 令和6年3月31日まで

※任期は、大学総括理事候補者選考検討会議規程第4条による

2回目の投票の結果、選出末尾2名の得票数が同数であり、欠員が生じた際に補充される委員の順番を決定するため、該当の2名を対象に監事を立会人として3回目の投票を行い、以下の順番で欠員補充することを決定した。

中山 満子 文学部長

酒井 敦 評議員

渡邊 利雄 人間文化総合科学研究科長

## 6. その他

なし

## II 報告事項

### 1. 第21回及び第22回役員会について

学長から、資料6により報告があった。

### 2. 奈良教育大学と奈良女子大学の教育の連携の方向性について

学長から、資料7により報告があった。

### 3. 令和5年度スーパーサイエンスハイスクール管理機関におけるコーディネーター活用の審査結果について

榎本理事から、資料8により報告があった。

### 4. 両大学における連携の取組状況について

榎本理事から、資料9-1及び9-2により報告があった。

### 5. 機構直下の組織に関する内部質保証について

榎本理事から、資料10により報告があった。

### 6. 令和3年度「全国学生調査（第2回試行実施）」奈良女子大学・奈良教育大学の現状について

榎本理事から、資料11により報告があった。

酒井評議員から、予習・復習等の時間が短いという分析結果について、コロナ禍において学生の負担を考慮する通達があり、それが影響しているのではないかとの質問があり、榎本理事から、コロナ禍前から同様の傾向にある旨の回答があった。また、榎本理事から、今年度の調査結果を踏まえ、単発的なものか持続的なものかを判断する必要があること、カリキュラムポリシーを検討する際にこの調査結果を踏まえた検討が必要であることの発言があった。

7. 第4規中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について  
榎本理事から、資料12により報告があった。
8. 第4期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要項について  
企画課長から、資料13により報告があった。
9. 令和4年度設置計画履行状況等調査の結果について  
企画課長から、資料14により報告があった。
10. 第3期中期目標期間（6年目終了時）にかかる法人評価結果（業務実績及び教育研究）について  
藤原副学長から、資料15により報告があった。
11. 令和5年度予算配分について（理事長裁量経費を含む）  
学長及び財務課長から、資料16により報告があった。  
文学部長から、教員研究経費の一律25%削減について、削減した予算はどこに充てられるのかとの質問があり、財務課長から、光熱水費と人事院勧告に基づく人件費の増加への対応に用いられる旨の回答があった。
12. 2023年度コーチングプログラムについて  
工学部長から、資料17により報告があった。
13. 機構内共通人事関係事務手続きガイド（HP）の公開について  
人事課長から、資料18により周知があった。
14. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業について  
藤原副学長から、資料19-1及び19-2により報告があった。  
柳沢評議員から、本事業の申請書は教育研究評議会に諮られるのかとの質問があり、藤原副学長から、次回の教育研究評議会に諮る旨の回答があった。
15. 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援事業について  
学長及び遊佐副学長から、本事業への申請に向けた検討状況について報告があった。
16. 工学系大学院の設置について  
藤原副学長から、令和8年度の工学系大学院の設置に向けた検討状況について報告があった。
17. 理事長文化勲章記念講演・祝賀会の開催について  
藤原副学長から、6月11日に記念講演・祝賀会を開催する旨の周知があった。
18. その他  
久保副学長から、資料20により、記念館一般公開の開催について周知があった。  
学長から、令和5年3月の教育研究評議会において意見があった、名誉教授称号授与の手続き方法について、過去の経緯等を調査した結果、設立当初から手続き方法は変更されておらず、変更するには強い理由が必要である旨の回答があった。  
学長から、令和5年3月の教育研究評議会において意見があった、大学ホームページに掲載されている特任教員の募集要項の記載内容について、特任教員の選考過程についての整理を検討していくことの回答があった。  
榎本理事から、事務職員の超過勤務の抑制に向けた取組みとして、緊急時を除く勤務時間外の業務発注及びメール連絡、大学としての意思決定が行われた後の方針転換について、極力避けたい

旨の協力要請があった。

以 上